

1

今年度の結果と取り組みについて

(1) 全国学力・学習状況調査

国語

国語A

(領域ごと)

①話すこと・聞くこと

良好な結果であった。

②書くこと

課題の残る結果であった。

③読むこと

概ね良好な結果であった。

④言語事項

概ね良好な結果であった。

⑤関心・意欲・態度

良好な結果であった。

(問題形式)

①選択式

概ね良好な結果であった。

②短答式

概ね良好な結果であった。

③記述式

なし

(無解答率)

概ね良好な結果であった

国語B

(領域ごと)

①話すこと・聞くこと

概ね良好な結果であった。

②書くこと

概ね良好な結果であった。

③読むこと

概ね良好な結果であった。

④言語事項

なし

⑤関心・意欲・態度

概ね良好な結果であった。

(問題形式)

①選択式

良好な結果であった。

②短答式

なし

③記述式

概ね良好な結果であった。

(無解答率)

概ね良好な結果であった。

分析

「話すこと」や「聞くこと」については良好な正答率であり、「読むこと」についても概ねよくできている。ただし、「書くこと」に関してはB問題では概ねできていたが、A問題ではやや課題があった。ルール説明の表現の仕方をよりよくするための助言についての解答が難しかったようだ。

図や表が書かれた説明文については正答率が高い。また選択式の設問もよくできていた。しかし、物語の読み取りについては正答率が少し低かった。

文字のかたちについてはよく理解しているが、ローマ字については正答率が低かった。

今後も「話す・聞く」のコミュニケーション活動を意識した取り組みを教育活動全般で展開するとともに、「書くこと」についても地道な指導にいつそう取り組んでいく。

○●算数・数学●○

算数A

(領域ごと)

①数と計算

概ね良好な結果であった。

②量と測定

良好な結果であった。

③図形

概ね良好な結果であった。

④数量関係

概ね良好な結果であった。

(問題形式)

① 択式

良好な結果であった。

②短答式

概ね良好な結果であった。

③記述式

なし

(無解答率)

概ね良好な結果であった。

算数B

(領域ごと)

①数と計算

概ね良好な結果であった。

②量と測定

概ね良好な結果であった。

③図形

概ね良好な結果であった。

④数量関係

概ね良好な結果であった。

(問題形式)

①選択式

概ね良好な結果であった。

②短答式

良好な結果であった。

③記述式

概ね良好な結果であった。

(無解答率)

概ね良好な結果であった。

分析

算数A・Bとも概ね良好な結果であった。選択式の設定の正答率が高く、相対的に記述式は苦手という傾向が見られ、ここでも「書く」力を各教科、各場面で磨いていく必要がある。

算数Aでは学習指導要領のすべての領域において、平均正答率は全国と大阪府より上回っている。評価の観点では、数量や図形についての技能に少し課題がある。設問別では、不等号の理解が全員正答であった。小数の加減法について課題がある。分数の乗法・三角形の底辺と高さの関係・割合を百分率で表す問題について無解答率が全国や大阪府の平均より高かった。

算数Bでは問題文から立式して計算する問題や、選択肢のある問題に関しては、解答までたどり着き、正答率もよい傾向にある。しかし、式の意味やその理由を説明し、文章化することとはとても苦手意識があるようで、記述式解答の正答率が低いことと、無解答率が高いことが特徴としてあげられる。

今後は、授業のなかで、答えを出すだけでなく、課題解決にいたる道筋や、その根拠等を、文章に書いたり、言葉にするような活動を、意識して取り入れる必要を感じる。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

- ・平均正答率は年により多少の上下はあるが、徐々に上がってきている。
- ・特に国語Bについては正答率がよく上昇している。
- ・無解答率の平均は国や府の平均に比べて大差ないが、国語Bについては、設問によって大きく異なるところがあった。

学力高位層と学力低位層についての分析

- ・学力低位層は年々減ってきている。
- ・学力高位層については年度によってばらつきがあり、今年度は増えている。

○●取り組み●○

学力向上に関する取り組み

① 授業改善を図る。

- ・授業研究、研究授業（年3回）、研修会、研究交流会、共通実践などを通じて、各教員の授業力を高める。また、ミドルリーダー層と経験の浅い教員が会してミニ研修を随時持ち、多様な学びの形態を習得しあう。
- ・授業のなかで、自分の意見や考えを述べ、他者の意見を聞き取り、比較し、練り上げる活動をより多く取り入れる。
- ・「コミュニケーション能力の育成」、今年度は特に「聞く力」に着目して話し合い活動が充実するような取り組みを、日常的に続けていく。
- ・「話し方名人」「聞き方名人」の項目を低・中・高学年別に設定し、教室に掲示している。6年間を通した系統立てた指導、力の育成を目指し、今後も子どもの実態に即した共通実践の設定や、検討、検証を進めていく。

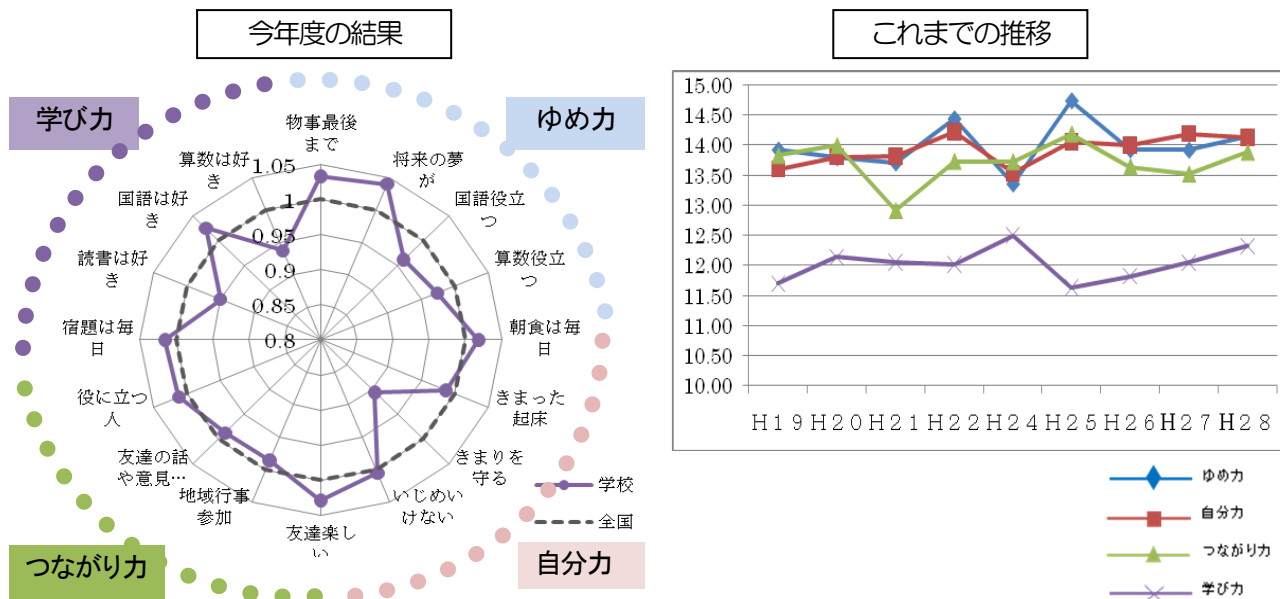
② 基礎的な学力育成を図る。

- ・毎日の家庭学習を習慣づけ、家庭にも協力をよびかける。
- ・夏休み中の学習会や休憩、放課後の個別指導を続け、きめ細やかな指導を進める。
- ・問題解決学習を中心として、意欲を喚起し楽しい思える授業づくりを推進する。
- ・めあてを提示して、まとめて終わる授業を基本とし、ふりかえりを通じて子どもたちのつまづきに気がつくことのできる授業づくりを行う。
- ・単元や子どもたちの実態に応じ、習熟度別分割、単純分割、2クラス3分割、T・T等の授業形式を選択し授業を進める。

③ 読書活動の充実や表現力を高める活動の推進

- ・読書タイムの実施、図書ボランティアによる読み聞かせなど、本との出会いを充実させる。
- ・図書館支援員との連携のもと、足を運びたい図書室の環境整備を行うと同時に、各教科と連携した、読み物の紹介等、「本を手にとろうとする」取り組みをいっそう推進していく。

○●子どもたちに育みたい力●○



分析

質問紙からは「学校が好き」、「授業が好き」という児童が多く、「人の役に立ちたい」、「困っている人がいれば進んで助ける」などの項目も全国平均よりも高かった。「自分によいところがある」、「将来の夢や目標を持っている」児童も多く、学校生活を明るく前向きに送っていることが感じられる。

家庭での生活習慣は、概ね規則正しく送っている児童が多いが、就寝時間は全国平均と比べやや遅めの傾向にある。またゲームをする時間はあまり長くないが、テレビやDVD、インターネットなどを見ている時間は長めであった。携帯電話やスマートフォンで通信する時間も長めだった。

学習状況では、平日・休日と関わらず学校以外で「4時間以上の学習時間」をしている児童が高く、それ以外の時間帯はあまり差がなかった。読書においては、市立庄栄図書館も隣接しているため、読書環境は整っており、読書時間も全国的に見て長かった。

発表やグループ学習なども進んで取り組む児童が多く、自分の考えを広めたり、相手の考えを聞き取るなど、話し合い活動の充実が浸透していると思われる。ただ「自分の考えを発表する」ことを得意と思わない児童が全国的に比べて高く、何事も前向きに取り組む反面、自信のなさが垣間見える。

国語に対する高い意識や重要性を理解しており、授業では「考えがわかるように書く」などしている児童が多い。反面、意見を発表するとき「うまく伝わるように工夫する」といった項目では苦手と感じる児童が全国的に見ても若干多かった。

算数に対する高い意識や重要性においても理解しており、授業姿勢も前向きな児童が多い。「算数の問題をもっと簡単に解けないか」「公式やきまりを習うときそのわけを理解する」など意欲的に取り組んでいる児童が多い。ただし「算数は好き」、「算数は将来に役に立つ」と答える児童が多くはなく、今後も習熟度別分割授業など指導方法の改善と、生活に密着した数学的思考力を養う工夫を研究していきたい。

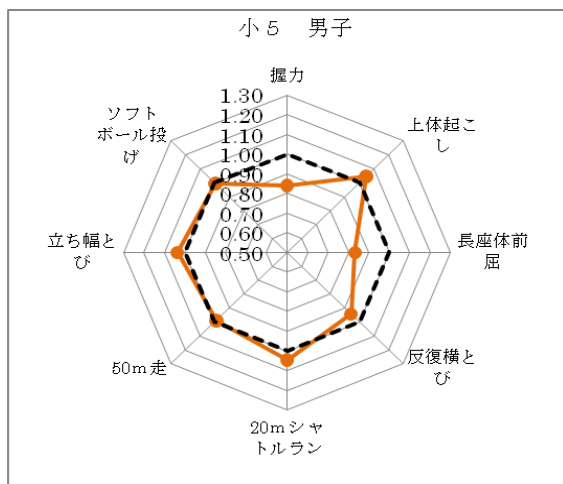
取り組み

- ・本校ではこれまで“コミュニケーション力の育成”に力を入れ、話し方、聞き方について意識的に取り組んできた。今後も継続して取り組み、豊かな人間関係づくりの基盤としたい。
- ・国語や算数の正答率は概ね良好であり、質問紙からは明るく前向きな全体像が見て取れるが、児童の「自己有用感」は十分に高いわけではなく、これからもよいところを認め励まし、自信を持たせるような取り組みを進めていく。

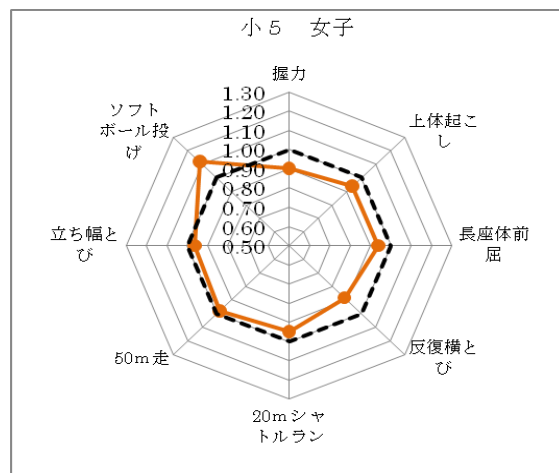
(2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

○●体力●○

男子 (小5)



女子 (小5)



分析

- 男子は上体起こしや20m シャトルラン、立ち幅跳びで健闘しているが、握力・長座体前屈の値は全国平均を下回っている。男子は比較的小柄な児童が多く、身軽さで走ったり跳んだりしているが、握力はそのメリットは表れないためかと考えられる。長座体前屈のように体の柔軟さを高める指導は今後の課題となる。
- 女子は反復横とびをはじめ、全般的にあまり奮わなかった。そのなかでソフトボール投げは比較的高い値を示している。ソフトボール投げについては、休日にキックベース・ソフトボール・野球などを行っている女子が比較的多く、それが反映しているように思われる。全般的に体力を向上させるための指導や工夫が課題である。

取り組み

- 本校は児童数に比べて広い運動場を有しており、体育館での体育の授業時間も保障されている。これらの資源を活かして、体育の授業をはじめとして、様々な運動を経験し、動きを身につけられるよう意識していく。
- 運動会では組体操の安全性を第一に考えながら、集団行動やダンスの要素を取り入れ、新しい集団演技を創造した。今後もこの方向性で、全般的な体力向上を図りたい。
- 行事ごとの体操の場面に茨木っ子体操を取り入れて普及を図る。
- 学級毎にボールや大縄を配り、休み時間に外で遊ぶことができる環境を整える。
- 運動場や体育館の体育用具を整備し、充実させる。

	(各校)	(各校)	(ブロック共通)
	学力向上	体力向上	中学校ブロック連携
目標	すべての教育活動を通して豊かな表現力を育てる。	いろいろな運動を経験し、楽しむ心を育てる。	保幼小中で18歳時点でのめざす子ども像を共通理解し、子どもの発達段階に合わせた実践を行う。
平成26年度	～3年間を通して～ ① 授業改善を図る。 ・授業研究、研究授業、研修会、研究交流会 パワーアップ研修 ② 基礎的な学力育成を図る。 ③ 読書活動の充実や表現力を高める活動の推進 ・読書タイムの実施と図書ボランティアによる読み聞かせ ・庄栄図書館との連携 ④ キャリア教育の推進を図る。 ・様々な人との出会いと交流の場をつくる。 ・小中連携の充実を図る。 ⑤ 基本的な生活習慣づくりのため ・家庭との連携を図る。	・茨木っ子運動の普及 ・マラソントイムの実施 ・いろいろな運動経験ができる体育の授業づくり。 ・体育用具の整備。 ・自主研修会をする。	◎それぞれの発達段階を理解するために ・小中合同授業研 ・行事の交流と授業の参観 ・授業研・公開保育などへの参加 ・クラブ活動の交流 ・夏季合同研 ・スタンダードの確立
平成27年度	26年度の反省を基にテーマを設定する 「コミュニケーション能力の育成」 ・授業研究 ① 授業改善を図る。 ・授業研究、研究授業、研修会、研究交流会 ② 基礎的な学力育成を図る。 ③ 読書活動の充実や表現力を高める活動の推進 ・読書タイムの実施と図書ボランティアによる読み聞かせ ・庄栄図書館との連携 ④ キャリア教育の推進を図る。 ・小中連携の充実を図る。 ⑤ 基本的な生活習慣づくりのため ・家庭との連携を図る。	・研修会の実施 ・環境整備 ・授業に関わる資料の収集	◎学力向上につながる授業づくり ・小中合同授業研 ・行事の交流と授業の参観 ・授業研・公開保育などへの参加 ・クラブ活動の交流 ・夏季合同研 ・連携カリキュラムの作成
平成28年度	26・27年度の反省を基にテーマを設定する 「コミュニケーション能力の育成～聞く力に焦点を当てて」 ・授業研究 ① 授業改善を図る。 ・授業研究、研究授業、研修会、研究交流会 ② 共通実践を設定する（聞き方名人・話し方名人の活用、学級活動や終わりの会等に児童が語り、聴くことを工夫） ③ 基礎的な学力育成を図る。 ④ 読書活動の充実や表現力を高める活動の推進 ・読書タイムの実施と図書ボランティアによる読み聞かせ ・庄栄図書館との連携 ⑤ キャリア教育の推進を図る。 ・小中連携の充実を図る。 ⑥ 基本的な生活習慣づくりのため ・家庭との連携を図る。 ⑦ 教師間の連携を高める	・研修会の実施 （授業づくり・水泳指導・運動会や連合運動会の練習指導にむけて） ・体育用具の整備・充実 ・茨木っ子運動の普及 ・マラソントイムの実施	◎三校合同で授業づくりの改善・実施 ・三校合同授業研 ・行事の交流と授業の参観 ・授業研・公開保育などへの参加 ・クラブ活動の交流 ・夏季合同研 ・連携カリキュラムの確立